

## 分科会報告 ①-1

1. コーディネーター 人材育成アカデミーローズレーン 代表 黒田 三佳
2. テーマ 地方から発信する「豊かな暮らし」
3. 参加者数 10名 (宮城県 2名 山形県 8名 福島県 0名)
4. ディスカッション内容

### はじめに

地方での良さと課題に気づき、仲間と共有し、自らアクションしようとする、すてきな方々にお集まりいただきました。働く場所だけでは人生は満たされない、「豊かな暮らし」こそ そこいる理由なのかもしれません。

### 内容 1～5の順に短時間でしたがアクションへの流れを作ることができました

#### 1.自己紹介・お互いの信頼関係構築となぜこのテーマを選んだか発表

電力会社の社員、経済連合会の職員、町議会議員、旅行会社社員、商工会議所職員、伝統こけし作家、行政職員、ビジネスを学ぶ高校生、マーケティングや商品開発を学ぶ宇生、、、と普段では、一緒にお話をする機会を同時に持つことのないメンバーでした。

#### 2.豊かな暮らしとは、ブレインストーミング→発表

- ・人々が温かいこと・ギスギスしない・時間に追われない・一人の存在が大切なこと
- ・やれることがあること・チャンスやチャレンジがあること
- ・食べ物がおいしいこと・安心な農作物・顔の見える食材
- ・おすそ分けのある暮らし(わらしべ長者(笑)になることも)
- ・自分らしい時間を持てること・趣味の時間を持てる・体験できること・本もの(自然)を見て暮らせること・当たり前前の自然の営みがわかること・四季の変化を五感で感じられること
- ・最低限の経済的な条件が満たされていること
- ・コミュニケーションがあること・顔の見えるネットワークがあること・方言でのコミュニケーション

#### 3.地域で課題と感じていること ブレインストーミング→発表

社会現象→人口減 若者の都会への流出 PR 不足 自信を持つこと 主体性

どう人を呼び込むか そして呼び込んだ後はどうするか

行政に頼らないネットワークの構築 おせっかいが減ったこと

#### 4.実際にターゲットを子育て中の世代にしぼり発信できることを考え発言

#### 5.Action 終了後 どんな手段で今日のことを含め発信するか 一人一人の決意表明

### まとめ

世代を超え、地方の「豊かな暮らし」への気づきが精神的なこと、人や自然とのふれあいなどに多く見られることを感じました。簡単にデータで表すことの難しい「豊かな暮らし」、それをだれかに届く形で発信すること、一人一人のアクションが未来の課題をゆるやかに解決することを感じました。何より、終了直後から私を含めその発信をメンバーたちがしてくれることに、本気と主体性を感じました。そして、このような偶然とも必然とも思えるチームを作る機会をくださったこの会に感謝致します。